




## 学 位 論 文 審 査 の 要 旨

受付番号	(甲) 第345号 乙	氏名	澤田 季子
論文審査委員	主 査	朝日大学歯学教授	都尾 元宣 
	副 査	朝日大学歯学教授	田村 康夫 
	副 査	朝日大学歯学教授	裕 哲崇 
論文題目	マウスガードの装着が基礎的生理心理指標に及ぼす影響		

### 論文審査の要旨

本論文は、3種類の大きさの異なるカスタムメイドタイプのマウスガードを装着させた被験者の唾液中の $\alpha$ -アミラーゼ濃度および心拍変動を測定した。また、従来の研究と比較するために心理評価として、アンケート調査(VAS法)も並行して行い、装着したマウスガードの大きさによる被験者への不快感の強さを客観的に評価することを検討したものである。

実験には、各被験者に第一大臼歯遠心の延長で口蓋を覆うタイプのマウスガード大、口蓋側を歯頸部から4mmの位置に設定したマウスガード中、口蓋側を歯頸部の位置に設定したマウスガード小について検討している。その他の実験方法の詳細は、論文内容要旨の通りである。

その結果、まず、唾液 $\alpha$ -アミラーゼ濃度について見ると、すべてのマウスガードで装着により有意に増加した。その増加量は、マウスガード大でのみ外した直後でさらに増加を示した。次に、心拍変動では、副交感神経系の指標であるHFについては、マウスガード装着による差はなかったが、交感神経系の指標である $LF / (HF + LF) \times 100$ については、すべてのマウスガードの装着により有意に増加した。また、この増加は、マウスガード大で特に増加率が大きくなったと示している。また、アンケート調査の記入は、マウスガードを取り外してから3分後の唾液の計測の後に、1. 呼吸のしやすさ、2. 適合性、3. 乾燥感、4. 異物感、5. スポーツ時に使用するときの大きさ、6. 舌触り、の6項目すべてにおいて、マウスガードの大きさで差が認められ、特に、不快感はマウスガード大で大きくなったと示している。

以上の結果から、マウスガードの装着そのものが、被験者にとってかなりのストレスになるものの、その度合いは、マウスガードの大きさに依存し、特に大では、被験者が不快に感じる度合いが、中や小よりはるかに大きいことを、唾液 $\alpha$ -アミラーゼ濃度、心拍変動、アンケート調査により明らかにした。

審査委員は、本論文が装着したマウスガードの大きさによる被験者への不快感の強さを客観的に証明したことを高く評価し、学位(歯学)に値するものと判定した。